

第 13 回 2025 年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議  
(議事概要)

1 開催日時

令和 7 年 11 月 5 日 (水曜日) 14 時 00 分から 15 時 00 分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎 33 階北塔 特別会議室 N 6

3 構成員等

○構成員

一般財団法人全日本ろうあ連盟	久松 三二	常任理事・事務局長
東京都	渡邊 知秀	スポーツ推進本部長
スポーツ庁	小川 哲史	参事官 (国際担当)
		(代理出席 : 古市参事官補佐)
公益財団法人日本オリンピック委員会	星 香里	常務理事
公益財団法人日本パラスポーツ協会	藤原 正樹	常務理事
弁護士	三好 豊	(欠席のため意見代読)
公認会計士	中村友理香	(欠席のため意見代読)

○事務局

一般財団法人全日本ろうあ連盟  
東京都

4 要旨

【挨拶】

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は、お忙しいところ、第 13 回 2025 年デフリンピック大会開催に係る大会準備連携会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- ・今回は、対面で渡邊委員、星委員、藤原委員が参加されている。また、小川委員の代理として古市参事官補佐が出席、三好委員、中村委員は欠席となっている。
- ・私から、一言、ご挨拶を申し上げます。
- ・6 月の第 12 回会議では、「未来へつながるプログラム」、「令和 7 年度デフリンピック気運醸成の東京都の主な取組」、「東京 2025 デフリンピックの観戦に係る今後の予定」等について皆様にご確認をいただいた。
- ・本日は、「国際手話通訳者および手話言語通訳者の養成」、「気運醸成の取組」、「大会準備状況」等について、順次ご説明をさせていただきます。
- ・いよいよ大会まであと 10 日となった。
- ・2022 年 9 月に、東京が 2025 年デフリンピックの開催地に決定して以降、約 3 年の間、

開催に向けた準備に取り組んできた。本日ご報告させていただくとおり、大会準備もいよいよ佳境に入ったところである。

- ・ここまで着実に準備運営が進められたのも、本会議の委員であるスポーツ庁やJOC、JPSSA、東京都などのご協力のおかげである。改めて感謝申し上げる。
- ・皆様、本日も忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

### 【資料説明】

#### ○国際手話通訳者および手話言語通訳者の養成等について報告（事務局）

- ・東京2025デフリンピックでは、国際手話通訳者と日本手話言語通訳者とのペアによる協働で通訳を進めることとし、必要な人材の養成を進めてきた。
- ・まず、2023年度から全日本ろうあ連盟国際委員会は東京2025デフリンピックに向けた登録国際手話通訳者試験を行った。
- ・これは、大会開催に向け、ICSDやその他国際機関など協議の場において必要となる国際手話通訳者を確保するため、国際大会又は国際会議での国際手話通訳経験者等を対象に登録試験を実施したものである。
- ・そして、東京2025デフリンピックに向けた国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成研修会は、大会に必要な国際手話通訳人材のさらなる確保のため、デフリンピックに関する基礎知識、協働通訳・リレー通訳の理念の習得などを目的として実施したものである。
- ・また、大会に向けて更なるスキルアップのため、国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者養成スキルアップ研修会を行った。
- ・世界手話言語通訳者協会の協力のもと、協働通訳技術のさらなるスキルアップと、大会・競技専門用語の習得などを目的として、協働通訳研修、競技別研修を行った。
- ・これらにより養成した人材を大会の国際手話通訳者及び日本手話言語通訳者として推薦した。
- ・国際手話通訳者約100名、日本手話言語通訳者約140名、あわせて240名程度が活動予定である。
- ・主な活動場面は、競技会場等での通訳や開閉会式会場での通訳、デフリンピックスクエアでの通訳を予定している。

#### ○全国キャラバン活動について報告（事務局）

- ・スポーツ庁では、東京2025デフリンピックを契機としたデフスポーツの機運醸成に向けた取組によりスポーツを通じた共生社会の実現を図るため、令和6年度補正予算を確保した。全日本ろうあ連盟ではこの予算を活用し、全国キャラバン活動としてデフスポーツの体験等を含めたイベント等を実施した。
- ・全国キャラバン活動の目的は、東京2025デフリンピックの認知度向上及び気運醸成、手話言語やろう者の文化の発信・理解促進、多様性と共生社会(SDGs)の推進、日本代表選手や各国選手への応援を全国から届けることとした。
- ・事業は主に、イベントキャラバン、学校キャラバン、キャラバンカー巡回となっており、

2025年3月から2025年11月14日まで実施する。

- ・まず、イベントキャラバンの詳細について報告する。
- ・イベントキャラバンは、デフスポーツやデフリンピック、共生社会の啓発促進を図るため、全国47都道府県及び大都市の大規模集客施設や自治体、競技団体等の大規模イベント等にて、イベントを実施するものである。
- ・実施場所は、47都道府県や大都市の大規模集客施設や大規模イベント等で行うこととしており、10月2日時点で実施件数は77か所、そのうち60か所はすでに実施済みである。
- ・実施内容は、東京2025大会やデフスポーツの紹介パネルやバナースタンドの展示、デフアスリート等によるトークショーなどのステージイベント、デフスポーツ体験、手話言語や国際手話の体験などである。
- ・次に、学校キャラバンについて説明する。
- ・学校キャラバンとは、小中学校、ろう学校を含む特別支援学校を対象に、学校からの依頼に基づきデフアスリートや手話言語指導講師等を派遣するものである。
- ・実施にあたり、プログラム実施に係る費用について、一部を連盟が負担する。
- ・2025年4月より募集を開始し、9月時点で予定していた上限50回を上回る申込みがあり、受付は終了した。
- ・その内訳は小学校26件、中学校10件、ろう学校及び特別支援学校14件で体験者数は約5,400名となった。
- ・また、きこえる子ども向け、きこえない・きこえにくい子ども向けの2種類のパンフレットを作成し、事前・事後学習で活用できるよう、体験授業を実施する学校に配布した。
- ・次にキャラバンカー巡回について報告する。
- ・ピンク色を基調とした大会PRカーの2台を仕立て、北回りと南回りで全国を巡回するものである。
- ・北回りの車は、6月14日より岩手県から21道県を回り、11月8日に東京都に到着、11月13日まで都内を巡回、その後Jヴィレッジに展示予定である。
- ・南回りの車は6月19日より大分県から25府県を回り、10月27日に東京都に到着、11月14日まで都内を巡回、その後デフリンピックスクエアに展示予定である。
- ・実施にあたり、各県内の巡回コースの選定、巡回地の行政への働きかけ、巡回に合わせたイベント等の企画、キャラバンカーの運転等は、都道府県聴覚障害者協会に委託し、リレー方式で最終地点の東京までをつないでいくこととした。

#### ○大会への子供の参画について（東京都）

- ・東京都は、子供たちがスポーツの素晴らしさや共生社会の大切さ等を学び、成長することをサポートできるよう、大会への子供参画の取組を実施する。
- ・1つ目は「子供の競技観戦・体験活動事業」で、都内の小中高特別支援学校を対象として、学校の希望により、競技観戦もしくは体験活動を選択し実施する。
- ・いずれの場合でも、学校での事前学習等に活用できる教材を提供する。
- ・競技観戦の当日は、サインエールでの応援、UC技術の紹介なども行う。体験活動は、デフリンピックスクエアで、スタートランプなどを体験してもらう。

- ・なお、都内だけでなく、被災地4県の子供たちも都内の競技観戦に招待する。
- ・2つ目は、ろう学校の子供たちの特別な参画である。
- ・具体的には、選手入場時のハイタッチやエスコート、表彰式の運営補助として副賞トレイベアラーとして参画する機会を提供する。
- ・都内の全6校の子供たちに加えて、被災地の石川県のろう学校にも参加いただく予定である。

○デフリンピック気運醸成に係る大会直前及び大会時の都の主な取組について（東京都）

- ・大会直前期には、より多くの人たちに会場に足を運んでもらえるよう、多様な広報施策を展開し、大会本番時には、様々な関係者と連携して、選手の活躍や大会の盛り上げを後押ししていく。
- ・大会直前期の主な取組として、年間を通じたイベントへのブース出展に加え、大会までの日数を表示したモニュメントを活用し、会場自治体を巡るカウントダウンツアーを実施している。
- ・10月1日から、都庁2階において、デフリンピックPRコーナーを開始した。
- ・10月3日には、東京ゆかりのデフアスリートの応援サイトを開設、大会1か月前となる10月15日には、アスリート等を招いて大会1か月前イベントを実施した。
- ・10月下旬からは 都庁プロジェクションマッピングをはじめ、交通広告やSNS、雑誌など多様な媒体により広報プロモーションを展開している。  
広報東京都11月号には特集記事を掲載した。
- ・本日11月5日には、連盟、事業団と協力し、メディアを対象にプレスセミナーを実施予定である。
- ・大会時には、都庁デフリンピックPRコーナーにおいて、日本選手の情報発信するとともに、「サインエール応援団」を結成し、日本戦やメダルセッション等においてサインエールで選手を応援する。
- ・また、駒沢オリンピック公園において、アスリートとの交流やデフスポーツ・パラスポーツの体験などが楽しめる「スポーツ FUN PARK」を開催する。

○ユニバーサルコミュニケーションの促進に係る大会時の東京都の取組について（東京都）

- ・ユニバーサルコミュニケーションの促進に係る大会時の東京都の取組について、ご説明させていただきます。
- ・これまで、各種イベントや展示会などにおいてUC技術を展示・PR、各種競技会等で技術実証を行ってきた。大会本番では、UC技術を多様な場面で活用、PRを通じ技術の社会実装につなげ、大会の確かなレガシーとしていく。
- ・競技会場では、サイネージ等を活用し、選手・関係者の円滑なコミュニケーションをサポートするほか、競技音をオノマトペや振動で体験する、競技解説等をスマートグラスで見るなど、最新技術で誰もが「音を見る」「音を感じる」競技観戦の機会を提供する。
- ・デフリンピックスクエアにおいては、「sure talk」など最新技術の展示やPRを行う。  
「Edo Tokyo」の魅力発信するスペシャルコンテンツも用意する。

- ・街なかでは、国内外から多くの選手・観客が集う大会の機会を捉え、都立・民間施設と連携し、UC技術等の活用を通じて、東京の更なるアクセシビリティ向上につなげるムーブメント、「オールウェルカム TOKYO～デフスペシャル～」を展開する。

○選手団のエントリーについて（東京都スポーツ文化事業団）

- ・今大会の登録選手数、国・地域数であるが、ICSDが選手団のエントリーを受け付け、10月28日時点で、3081選手が80の国・地域から登録されている。選手の内訳は、男子2014人、女子1067人。
- ・次に、実施種目数についてであるが、21競技、209種目の実施を予定している。
- ・ICSD規約に基づき、最終登録で実施要件を満たさなかった4種目は、ICSDにより中止が決定されている。
- ・なお、選手の最終登録の結果を踏まえて、現在、確定版の競技スケジュールを精査中である。精査でき次第、大会ホームページに掲載する予定。

○選手への対応について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・まず、各国選手団の宿泊予約状況について説明する。
- ・各国選手団が公式旅行代理店を通じて宿泊予約を行っている状況は資料のとおり。
- ・資料外では、各国が自ら宿泊施設を手配しているケースがあり、現在宿泊先を対象国に問い合わせしているところである。
- ・次に、選手・関係者向けのサービスについて説明する。
- ・宿泊施設では、選手団サービスデスクを設け、選手団の問合せやランドリーサービスを提供する。
- ・選手団とのコミュニケーションをスムーズに行うため、多言語音声文字化アプリをインストールしたタブレットを配置する。
- ・会場では、おもてなしとして、バナナや飲料などの補食を提供する。
- ・周辺に飲食店が乏しい会場では、キッチンカーを手配する。
- ・最後に、選手団への輸送サービスについて説明する。
- ・輸送期間は11月11日から28日としている。その間、入出国、開閉会式、競技等のスケジュールに合わせてバスを運行する。
- ・各宿泊施設から競技会場までの移動には、1時間程度を想定している。
- ・都内遠方会場や地方会場のバスには運行管理者が同乗し、車内での選手サポートを行う。
- ・地方会場とデフリンピックスクエアを結ぶ輸送を提供し、都内での競技観戦やデフリンピックスクエアでの催しを体験できるように、バスを用意する。
- ・トヨタ社から提供される乗用車を、少人数の輸送や緊急車両として活用することで、より確実な選手輸送を実現する。

○観客への対応について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・観戦に向けた情報発信として、大会時に、目的に沿って必要な情報に速やかにアクセスできるよう、大会ホームページに特設ページを追加する。

特設ページは、①競技観戦ガイド ②競技日程 ③対戦の組み合わせと競技結果 ④競技動画配信 (YouTube) ⑤ハイライト映像 ⑥会場の混雑状況 ⑦デフリンピックスクエアの各コンテンツにトップページからワンクリックで遷移できるように作成している。

- ・競技観戦ガイドについては、10月17日にホームページに掲載した。大会概要、デフリンピックスクエア、実施競技一覧、実施会場一覧、競技日程、来場に当たってのご案内、各競技紹介、協賛広告等を掲載している。
  - ・次に観客用リストバンドについて説明する。
  - ・各競技会場において、大会エンブレムのモチーフである「桜の花弁」を取り入れた、限定オリジナルリストバンドを来場者に配布し、来場者数の把握にも活用するものである。
  - ・リストバンドには競技名が記載され、競技ごとに異なるカラーでデザインを行うことで、会場ごとのオリジナリティを表現している。
  - ・また、リストバンドにはQRコードを印字し、スマートフォンを用いて競技観戦ガイドへ容易にアクセスできるようにしている。
  - ・なお、大会全体の想定観客数は、約10万人としている。
  - ・会場装飾については、基本的な考え方として、FOP周りに大会ロゴバナーを配置し、選手が高いパフォーマンスを発揮しながら高揚感を得られる空間を創出し、デザインは、視覚情報が重要なデフリンピックの特性を踏まえ、競技の妨げにならないシンプルなものとしている。
- 入口付近は桜ののぼりを配置し、会場に訪れる観客や選手を桜並木で出迎える。  
メディアへの映り込みを考慮することで、東京2025デフリンピックをより一層印象づける。

#### ○メディア関係について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・メディアからの申込状況について、10月17日時点で、
  - ・IDカード申請 国内:182社2,309名 海外:16社54名
  - ・放映希望申請 国内:10社、海外:1社
  - ・映像使用希望申請 国内:36社、海外6社 となる。
- ・メディアガイドについてはメディアが取材活動を円滑に行えるように各競技会場の撮影エリアやインタビューエリアの運用についてご案内をまとめている。
- ・最後にメディア向けの情報発信について説明する。
- ・会期間中に、公式の記者会見を3回、プレス説明会を1回、予定している。
- ・第1回記者会見は11/14（金）、デフリンピックスクエア小ホールで行い、主催者等の挨拶、協賛企業によるプレゼンテーションを予定している。
- ・17日のプレス説明会を挟み、第2回記者会見は11/20（木）、第3回記者会見は11/26（水）と節目で情報を発信する予定である。

#### ○開閉会式について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・開閉会式については、東京体育館にて実施予定。プログラムは資料のとおり。
- ・主な出演についてだが、本式典は、きこえない演出家の大橋弘枝氏、きこえる演出家の

近藤良平氏の2名の演出家を起用している。

- ・また、国旗などのフラッグベアラーや、選手団行進のプラカードについては、地元やろう学校の子どもたちが参加予定である。またアーティスティックプログラムでは、公募で選ばれた一般の方が参加するなど、多くの皆様でつくりあげる式典となっている。

#### ○デフリンピックスクエア（東京都スポーツ文化事業団）

- ・大会期間中、デフリンピックスクエアを国立オリンピック記念青少年総合センターに設置する。
- ・大会本部や輸送ハブ、メディアセンターなどの「大会本部機能」と、デフスポーツやろう者文化への理解を深めるコンテンツをはじめ、ユニバーサルコミュニケーション技術や東京の魅力を紹介する取組などを行う「文化発信機能」の2つの機能を置く。一部の選手は宿泊施設として利用する。
- ・例えば、センター棟には、大会運営本部やメディアセンターをはじめ、関係者諸室や、全日本ろうあ連盟による「DEAF SPORTS HOUSE」を設置する。
- ・「にぎわいエリア」では、大会エンブレムをモデルにしたフォトスポットの設置、キャラバンカーの到着式等を実施する。その他「文化・技術発信エリア」も設置するのでぜひ足を運んでいただきたい。
- ・11月14日（金）には、デフリンピックスクエアのオープニングイベント、記者会見、メディアツアーなどを実施する。メディアツアーでは、文化・技術発信エリア、にぎわいエリア等の取組を紹介する。
- ・全日本ろうあ連盟や東京都と連携し、多様な取組を展開することから、ここは大会を象徴する場になると考えている。
- ・デフリンピックスクエアを通じて、大会の成功に繋げていきたい。

#### ○メダルデザイン等について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・国内唯一の聴覚障害者、視覚障害者のための大学である、国立大学法人筑波技術大学の学生がエンブレムのデザイン案を複数制作した。
- ・その後、ろう学校を含む都内の中高生の参加によるグループワークを実施し、デザインを決定した。
- ・メダルデザインは、全国の小中高生によるオンライン投票でメダルデザインを決定した。
- ・メダル表面は、折り紙で作った鶴を描いており、選手たちが大きく羽ばたき、活躍することを願ったデザインであり、縁起が良いとされている日本の伝統的な模様を使用している。
- ・また、メダル裏面は、いくつもの線がまじりあうデザインで、世界の人とのつながりを表現している。
- ・製作にあたっては、伝統工芸士を含む東京の熟練職人の技術を活用し、精巧なデザインを実現している。
- ・メダルリボンも、日本の伝統的な模様を組み合わせたデザインで、糸を複雑に組み上げる伝統技法「東京くみひも」によって、手作業で精密に製作している。リボンの色は「藍

鉄色」という緑色を含んだ濃い青色で、江戸時代の人好んでいた色を使用している。

○協賛について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・協賛企業については、資料のとおり、東京 2025 デフリンピックへの協賛は9月30日をもって受付を終了。合計160者と契約締結を実施。
- ・協賛者に付与している権利の利用状況は資料のとおり。開閉会式や競技会場でのブース出展、大会運営をサポートいただくサポートスタッフなどに多くの申し込みをいただいている。
- ・V I K（物品提供・役務提供等）による協賛が多く含まれており、今後、同意を得られた協賛者の支援内容を広くPRしていく。
- ・また、広報協力として、成田空港及び羽田空港でのデジタルサイネージを掲出いただく。期間は、11月1日から30日までの1か月間で、選手や関係者の出迎え・見送りを華やかに彩る予定。

○ボランティアについて（東京都スポーツ文化事業団）

- ・活動の概要についてであるが、ボランティアの当選者は3,500人。そのうち、5割程度が手話言語でのコミュニケーションが可能と回答している。
- ・原則1人3日間以上、1日あたり5時間～最大8時間程度活動してもらおう。
- ・続いて、配置・役割についてであるが、活動場所は競技・練習会場やデフリンピックスクエアをはじめ記載のとおり。
- ・主な役割は選手、観客、関係者の案内・誘導などである。
- ・研修についてはオンデマンド形式で実施している。
- ・最後に、シフト・役割の通知については、7月に活動場所・日程の案を通知した後、調整を重ね、10月上旬には確定版のシフト・役割を通知したところであり、大会本番に向けた準備を着々と進めている。

【意見交換】

○東京都 渡邊本部長

- ・いよいよ大会まであと10日となった。
- ・この間、スポーツ庁やJOC、JPSSAなどのご協力を改めて感謝申し上げます。先ほどの報告にあったように、出場国、選手も決まり、各競技会場等における準備も佳境に入ったところと思う。ろうあ連盟、事業団と連携し、世界中から集まるデフアスリートをお迎えする準備を進めていく。
- ・過去大会に比べ、充実した内容になっている。
- ・競技会場にも多くの方々にお越しいただき、デフアスリートたちの活躍を間近で観戦し、応援していただきたい。
- ・デフリンピックスクエアにおいて、選手や関係者向けに日本・東京の文化に触れていただける事業も展開するため、様々な体験、思い出を母国に持ち帰ってもらいたい。
- ・広報東京11月号において、デフリンピックの特集を組んだり、山手線、中央線、京浜東

北線にデフリンピックのポスターを貼ったラッピング電車を走らせたり、地域のイベントに出店したり、様々な形でPR活動を都内で展開している。

- ・東京都では、都内、被災地、ろう学校の子供たちに、大会を通じて、スポーツの素晴らしさや、障害のあるなしなどにかかわらず互いに尊重しあうことの大切さ、多様性などを学ぶ機会を提供するため「競技観戦・体験活動事業」を実施する。
- ・大会の成功はもとより、この大会を通じて、デフスポーツの振興や共生社会につながるレガシーをしっかりと残せるよう取り組みを進めてまいりたい。

#### ○スポーツ庁（代理出席：古市参事官補佐）

- ・最近メディアでよく取り上げられており、広報活動の成果を実感している。
- ・スポーツ庁としては、文部科学省広報誌『ミラメク』やSNSで、観戦ガイド等発信している。
- ・危機管理の会議に参加し、万が一の災害に対する対応についても準備されており安心した。
- ・大会期間中の危機管理について、準備状況を説明いただきたい。

#### ○東京都スポーツ文化事業団

- ・基本的には東京2020大会と同様の体制・準備を進めている。
- ・部屋の電気の点滅、光る誘導棒を各会場に準備、プラカード等での案内など細かく指示している。
- ・全日本ろうあ連盟に指導いただきながら、きこえない・きこえにくい方に対応した、具体的な危機管理マニュアルを各会場に準備している。
- ・これまでの大規模なスポーツ大会とのオペレーションの積み上げにより、危機管理体制、指揮命令系統等確認、準備している。

#### ○公益財団法人日本オリンピック委員会 星常務理事

- ・ご説明お礼申し上げます。
- ・細やかな準備に感謝申し上げます。
- ・テレビでもアスリートが取り上げられており、機運が高まってきていると実感している。
- ・最後までアスリートが全力で輝けるよう、引続き準備していただきたい。
- ・世界中から来日するアスリートのみなさんが、ケガなく自分たちの力を発揮できるようなサポートが大切である。
- ・日本代表の選手にはよい成績を出してほしい、それを見たらろう学校の子供たちが将来のデフリンピックに出たいと思うようになってほしい。

#### ○公益財団法人日本パラスポーツ協会 藤原常務理事

- ・いよいよ大会が始まる、感慨深い。
- ・関係者の皆様の尽力に敬意を表する。
- ・我々もデフリンピックをできるだけサポートしたいとの思いで、活動を続けている。

- ・会場に足を運んで応援したい。
- ・日本選手のスケジュールを教えてください。

○東京都スポーツ文化事業団

- ・団体競技については、日本チームの初戦の日程は公表している。
- ・個人競技については、11月14・15日頃に公表予定である。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・過去大会に参加した日本選手団は150名が最高であったが、今大会は日本開催ということで400名近い選手団となっている。
- ・現在、懸命に調整中のため、もうしばらくお待ちいただきたい。

○三好弁護士（意見代読：事務局）

- ・デフリンピックの開催を目前に控え、関係者の皆様のこれまでご尽力に深く敬意を表します。
- ・大会が多く感動と交流を生む場となりますことを心から願っております。

○中村公認会計士（意見代読：事務局）

- ・大会本番に向けた準備状況についてご報告いただき、ありがとうございます。
- ・国際手話及び手話言語通訳者が必要数確保でき、また、ボランティアも半数の方が手話でのコミュニケーションが可能ということで、大会参加者も心強いかと思えます。
- ・協賛企業も大変多く集まり、関係者の皆様の努力に敬意を表します。
- ・大会終了後には、収支状況のとりまとめの報告があるかと思えますので、確認させていただきたい。
- ・安全無事に大会が迎えられるよう祈っています。

**【意見交換総括】**

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・皆様からのご意見に感謝申し上げます。
- ・只今いただいたご意見も踏まえ、今後、大会の準備運営をしっかりと進めていく。

○事務局

- ・「国際手話通訳者および手話言語通訳者の養成」や、「選手への対応」、「観客への対応」等の大会準備状況や気運醸成に関する取組について、皆様にご確認をいただくことができた。
- ・次回連携会議について、具体的な開催時期・開催方法については、改めて事務局から皆様にご連絡を差し上げる。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日皆様からいただいた貴重なご意見を参考に、引き続き大会の成功に向けた準備をより一層進めていく。本日はありがとうございました。これを持ちまして、会議を終了させていただきます。